

<主な訪問先の内容>

浄慈寺

西湖の四大古刹の一つ。954年呉越王により建てられ、始めは「恵日永明院」と名付けられた。日本曹洞宗とも深い関係がある。日本の曹洞宗の開祖、道元禅師に法を授けた如浄大師のお墓がここにある。南宋時代に「浄慈禅寺」に改名され、同時に五百羅漢堂も建設された。現在は江南五山の中の一つとして知られている。

西湖

2011年に登録された世界遺産（文化遺産）。中国十大風景名所の1つにも数えられる西湖は、杭州随一の観光名所。その周辺には「西湖十景」に代表される100以上の見どころが点在するといわれている。

数世紀にわたって中国内だけでなく、日本や韓国の庭園意匠にも影響を与え、徳川御三家の庭園では西湖堤が模されている。また、人と自然の理想的な融合を表現しようとする理想が追求され、数多くの景観を描き出し、庭園造成の文化的な伝統を今に伝えている。

南宋官窯博物館

南宋時代の官窯を中心に、遺跡からの出土文物を展示する博物館。官窯とは、皇帝や皇室に磁器を作る国営の陶磁器製作所のこと。時代ごとに部屋が分けられており、わかりやすい。別棟には、復元遺跡や長さ40.8mもある「龍窯」という登り窯の遺跡もあり、龍窯の遺跡からは数万点に達する磁器や器具類が発見され、現在は遺跡そのものが館内で保管されている。

霊隠寺

禅宗の古刹。東晋の326年にインド僧・慧理が建造し、10世紀に五代呉越王の銭弘俶が改造した中国禅宗十大古刹の一つである。最盛期の10世紀頃には、3000人以上の僧が居住した。寺内の天王殿には、中国最大の木彫り釈迦である弁尼の座像が安置されている。現在の寺院は、19世紀後半に再建された。

道元禅師来宋上陸記念碑

曹洞宗の開祖道元禅師が修行のために入宋、最初に上陸したと思われる地点に、永平寺によって1998年11月に建立。碑には、道元禅師が1223年4月に到着したことが記されている。

天童寺

禅宗五山の一つ。西晋の永康元年（300年）の創建と伝えられる。過去には鑑真和尚もこの地を訪れ、日中間の仏教文化交流の拠点になった。南宋時代（1223年）には日本僧、栄西と道元が修行に訪れ、帰国後それぞれ臨済宗、曹洞宗を開いた。現存の建築は清代以降のものが多く、古木の茂る5.8万㎡の境内には天王殿、大雄宝殿、羅漢堂など20余の伽藍が並ぶ。

また日本を代表する画家・雪舟もこの寺の首座を務めたことがあり、その後も日本から多くの禅僧がこの寺に修行に訪れている。

阿育王寺

寧波市区の東16キロメートル、山紫水明な阿育王山にある。西晋の大康3年（282年）に創建されたこの寺は奈良時代日本へ渡来した鑑真や宋代の道元、明代の画僧雪舟など日中文化交流史上重要な寺院である。紀元前232年～23年、インド孔雀王朝第三代阿育王統治の時代、世界各地に8400もの舍利塔を建て釈迦のお骨を納めた。このうち中国には19基が建立されたと伝えられ、19基のなかで阿育王寺の舍利塔が中国で現存する唯一のものと言われている。

水上オペラ「印象西湖」

夜の西湖を舞台に、張芸謀と日本の喜多郎がコラボレーションしたエンターテイメント。大型な山水ロケ演出で、晴、雨、霧、音、光、電、形及びその他多くのハイテク手段を通し、古都杭州の千古の伝説と神話を表現する。

<宿泊ホテル>

杭州友好飯店

杭州友好飯店は中国初の日中合弁ホテル。市中心部にあり、西湖から500m。20階建、4つ星ホテル。